



平成 29 年 6 月 14 日

各 位

会社名 株式会社 オハラ
代表者名 代表取締役社長執行役員 齋藤 弘和
(コード番号 5218 東証第 1 部)
問合せ先 取締役常務執行役員 中島 隆
(T E L 042 (772) 2101 (代表))

第 2 四半期業績予想と実績の差異に関するお知らせ

平成 28 年 12 月 15 日に公表いたしました平成 29 年 10 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 4 月 30 日）の業績予想と、本日公表の同実績に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 10 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想と実績との差異 (平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 4 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1 株当たり 四半期 純利益
前回発表予想 (A)	百万円 10,600	百万円 180	百万円 320	百万円 240	円 銭 9.87
実績値 (B)	11,483	379	655	498	20.50
増減額 (B - A)	883	199	335	258	—
増減率 (%)	8.3	110.9	105.0	107.8	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 28 年 10 月期第 2 四半期)	10,687	85	△158	△351	△14.45

2. 差異の理由

売上高は、光事業において、デジタルカメラ向け光学レンズ材の需要は、前年同期並みに推移したものの、プロジェクター等の光学機器向け用途が増加したこと及び、エレクトロニクス事業において、一部新製品の販売立ち上げに遅れが生じたものの、光通信機器用ガラス素材や極低膨張ガラスセラミックスの需要が増加したこと等から、前回発表予想を上回りました。また、損益面では、光事業、エレクトロニクス事業ともに生産性の改善に努めたことなどにより、前回発表予想を上回りました。

なお、通期の連結業績予想につきましては、一部新製品に販売立ち上げ遅れの影響があるものの、光通信機器用ガラス素材や露光装置向け製品の需要が堅調なことから、前回予想値を据え置いております。

※ 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて当社が判断したものであり、実際の業績等は、様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

以 上